

農業生物資源研究所 NIASオープンカレッジ

(共催:「知の市場」お茶の水女子大学LWWC)

問題点: 農業生物資源研究所の研究成果を社会に発信する機会が不足している
生物資源の改良の歴史や社会貢献に関する情報発信が、充分とは言えない



企画目的: メディアの集積地である東京において農業生物資源研究所の研究成果を定期的・効率的に情報発信する
生命科学リテラシー向上を通じた社会貢献

<企画内容>

平成21年9月から12月にかけて、東京の四ツ谷(主婦会館)でNIASオープンカレッジを開催した(毎週木曜日)。メディア関係者、社会人、学生など52名(登録参加数)が受講し、当研究所の最新研究成果や遺伝子組換えの情報など、様々なテーマを基に講義を行った。各講義の終わりには、受講者との意見交換の場が設けられ、講義内容に関して活発な意見交換が行われた。

・講義の様子



石毛講師の講義の様子



川崎講師のカイコのフェロモン実験の様子



・講義シラバス(平成21年度)

| 科目領域 | № | 講義名 | 開催日 | 講師名 |
|----------|----|--|--------|-------|
| 総論 | 1 | DNA2重らせん構造の発見から50年遺伝子組換え作物開発までの研究の歴史 | 9月3日 | 石毛光雄 |
| | 2 | 植物ゲノム研究 | 9月10日 | 佐々木卓治 |
| | 3 | 昆虫・動物資源の利用 | 9月17日 | 新保博 |
| | 4 | 遺伝子組換え生物等の安全性評価システムとサイエンス・コミュニケーションの取り組み | 9月24日 | 田部井豊 |
| 動物科学研究領域 | 5 | 動物性タンパク質の供給から畜産分野への貢献まで | 10月1日 | 黒原光雄 |
| | 6 | ブタゲノム研究を中心に家畜のゲノム研究とその成果の利用 | 10月8日 | 栗田 崇 |
| 昆虫科学研究領域 | 7 | 昆虫利用の新展開 | 10月15日 | 本内徳 |
| | 8 | 環境保全型農業を実現する技術の開発 | 10月22日 | 川崎建次郎 |
| | 9 | 多様な昆虫の機能とその害虫制御への展開 | 10月29日 | 野田博明 |
| 植物科学研究領域 | 10 | 耐病性作物開発を目指した取り組み | 11月5日 | 高辻博志 |
| | 11 | 植物はどのようにして光を感じ、それに応答しているか? | 11月12日 | 高野 誠 |
| | 12 | 植物・微生物共生とは | 11月19日 | 井 誠 |
| 基礎研究領域 | 13 | 多様な遺伝資源の収集保存と持続的利用 | 11月26日 | 河原 真琴 |
| | 14 | 放射線を用いた突然変異育種 | 12月3日 | 中川仁 |
| | 15 | 遺伝子情報を利用した品種改良 | 12月10日 | 矢野昌祐 |

<企画成果と今後の予定>

約4ヶ月、合計15回の講義を修了した参加者(修了証発行者)は29名であり、修了者比率は申込者数の56%となった。参加者の主な意見は以下の通りであり、概ね高い評価を得ている。来年度についても、秋から15回を開催する予定であり、今後さらに多くの一般参加者が得られるように取り組む予定である。

<参加者の感想と主な意見>

- ・とても参考になりました。今後は直接現場で担当されている方の生の声も聞かせて頂ければ更に広い知見が得られると考えます。
- ・この分野の勉強はテキストも少なくなかなか1人で勉強しにくいので、大変勉強になりました。受講後は受講前と比べかなり能力が向上したと思う。
- ・是非、継続して欲しい。また、終了後につくば市の農業生物資源研究所の訪問機会を考慮して欲しい。
- ・研究分野だけでなく応用分野の講義もお願いしたい。オプションで、NIASに行って実際の研究現場を見学できるツアーをやって欲しい。
- ・最新の資料による教材、専門家の講師による熱心な講演、それを支える事務局のご苦労に感謝したい。
- ・豊富な資料をいただき感謝しています。
- ・NIASの各研究領域が行っている研究成果等をやさしく紹介いただいた。教材は事前にネット配信等でいただければ、予習もでき、又、費用や手間は受講者もちになる。
- ・遺伝子組換え作物の話をもっと聞きたかった。
- ・研究者の“目”だけでなく、学生や企業人、主婦などの立場から、自分の業務を見直してプレゼンしてもらえたらより良かったかもしれない。



遺伝子組換え研究推進室(田部井、石川)
問い合わせ先: 029-838-7431, kenkyu-suishin@nias.affrc.go.jp